

博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程
博士学位論文審査委員会

主 査 中村 仁

審査委員 増田 幸宏

審査委員 鈴木 俊治

審査委員 ヤスミン バタチャリヤ

審査委員 村山 顕人

*審査委員

氏 名	Nadhirah Binti Nordin
論文題目	The Relationship of Physical and Social Environments with Active Ageing among Older Adults: A Case Study in the Malaysian Neighbourhoods of Johor Bahru (年長者のアクティブな高齢化と物的・社会的環境の関係：マレーシアのジョホール・バル市の近隣区域を事例として)
〔論文審査の要旨〕 高齢者が生き生きと暮らすことができるアクティブな高齢社会の実現が世界的に求められている。本論文の目的は、マレーシアのジョホール・バル市の近隣区域を事例として、客観的な物的近隣環境（PNEO）、主観的な物的近隣環境（PNES）、客観的な社会的近隣環境（SNEO）、主観的な社会的近隣環境（SNES）の4つの要素が、高齢前期世代の身体的・社会的活動（PA）レベルに及ぼす影響を分析して、アクティブな高齢社会に向けた近隣計画・住宅政策の知見を得ることである。 論文は、包括的な文献調査にもとづく概念的枠組みの提示、ジョホール・バル市の4つの近隣区域を対象としたアンケート調査とクロス集計分析、結果の考察、近隣計画・住宅政策への示唆によって構成される。詳細な分析の結果、PAを高める要素として、PNEOについては、モスクなどの施設への距離、土地利用の混合などが、PNESについては、施設などへのアクセス性、交通安全性などが、SNEOとしては、コミュニティ活動への参加などが、SNESについては、コミュニティ組織への信頼感などが重要であることを明らかにした。 博士課程在籍中に公刊された研究業績として、国際ジャーナル論文が4編、審査付き国際会議プロシーディングスが4編、最優秀論文賞の受賞が1回という実績を有している。 最終審査は、2020年8月11日（火）午前10時～12時にオンライン方式で実施した。プレゼンテーションと質疑応答の結果、文献調査をもとに評価指標や方法を丁寧に検討しており、アンケート調査の結果を数値的に詳細に分析している点が高く評価された。 予備審査において、数値化して分析した結果を地区の物的環境を示す図と照合しながら説明すること、各地区から得られる共通の知見だけでなく、各地区の相違点およびその要因についても詳細に分析すること、所得水準、自動車交通量などの要因も分析したほうがよいこと、などの改善点が指摘されたが、それらの点についても的確に対応がなされていると評価された。また、博士論文の成果をふまえて、今後の研究課題、近隣計画への反映の可能性についても活発に議論がなされた。 以上より、審査委員全員が「合格」と判定した。	